三　帖木兒の生れし國

さて今進むで彼の事業などを敍する前に、少しくその本國の有樣を記して置く必要があらう。トルキスタンとか中央亞細亞とかいへば、一般に不毛の砂ッ原位によりか考へられて居ないかも知れないが、しかし事實は決してそんなものではない。今日の地理學上の言葉では彼の根據地方は露領土耳其斯坦の名で呼ばれて居る。生れた場所はケシュの町ではあるが、後に都と定めたのはサマルカンドの町である。此等のケシュ、サマルカンドなどを中心にした地方は、大體二つの河によつて包むことの出來る一區域である。北なるをシル河、南なるをアム河といひ、ともにアラル湖に注ぐのである。古くはソグド、希臘人がトランスオキジアナといふた地方で、更に此の中央を流るるツアル・アフシャンの流域の如きは、古くから或は「世界の樂地」、或は「世界の沃地」などゝ呼ばれた處で土地肥え草木繁茂せる樂天地である。歷山大王の東征を知るものは、またマラカンダなる町の名を記憶するであらう。今のサマルカンドの町は卽ちその名の今日に殘れるもので、此の時以來でも既に悠々二千二百餘年の生命を保つて居る。アーリヤ人種の本據地は卽ち此の地方であるとの說は、學界で甚だ有力な說であつた。例へばそれが尙ほ否難すべき餘地があるにしても、古くから高尙な文明を持つたイラン人種が、此處に據つたものであることは、もとより明白な事實である。其の後東方から追々トルコ人種が侵入してこゝに土着するやうになつてからも、またモハメット敎國の勢が東に進んで、其の聖典が讀誦せられ、寺院が建てられるやうになつてからも、なほイラン文明卽ち波斯系統の文明は此の地に昌へて居つたものと思はれる。成吉思汗の侵入は實に此の地方にとつては一大打擊で